

感染症科

診療科名	感染症科 (文責者 平井 由児)
科長名	平井 由児
診療科概要	<p>当科は院内の感染症コンサルテーション、HIV・性感染症・輸入感染症の外来診療、ならびに診療クオリティ維持のための感染対策業務を担っております。院内の感染症コンサルテーションにおいては、診療科からの相談に基づき、患者背景、身体所見、検査結果の総合的な解釈のもと、エビデンスに基づいた診断・治療のコンサルテーションを行っています。また、血液培養陽性症例への全例介入を行い、適切な抗菌薬治療の推奨を行っています。</p> <p>HIV・性感染症の外来診療についてはセクシャリティを含むプライバシーに配慮し多様性を理解できる診療をすすめています。輸入感染症では、世界的に認識されたガイドラインに基づき適切な病歴聴取・身体所見の評価をもとに診断・治療を行っております。</p>
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> ①担当症例の病歴や患者背景を正確に把握できる。 ②適切な身体所見の評価ができる。 ③適切な培養検査のタイミングと解釈ができる。 ④感度特異度を理解し、検査結果の意義を解釈できる。 ⑤感染症の初期診断・鑑別診断ができる。 ⑥急性感染症について、診断・治療を計画できる。 ⑦脳炎・髄膜炎の診断・治療を計画できる。 ⑧皮膚軟部組織感染症を診察し、治療を計画できる。 ⑨呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）を診察し、鑑別診断の方法・治療計画を挙げられる。 ⑩胆道系感染症（胆嚢炎、胆管炎）を診察し、診断・治療を計画できる。 ⑪尿路感染症を原因別に区別し、治療適応の判断と計画ができる。 ⑫血流感染症（カテーテル関連血流感染症、感染性心内膜炎など）を診察し、コンセンサスのあるガイドラインに基づいた診断・治療計画ができる。 ⑬腸管感染症の診断と抗菌薬の適応を説明できる。 ⑭骨・関節感染症を診察し、原因別の診断・初期治療計画ができる。 ⑮ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎）の診断・検査結果の解釈・感染対策を立案できる。 ⑯細菌の臨床的分類を理解できる。 ⑰結核の適切な診断方法と治療計画を説明できる。 ⑱真菌感染症（カンジダ症）の適切な診断・治療を計画できる。 ⑲HIVを含む性感染症の背景を理解し、診療に参加できる。 ⑳寄生虫疾患を診察し、診療に参加できる。 ㉑抗菌薬の分類を抗菌スペクトラムごとに理解する。 ㉒抗菌薬の適応を理解し、抗菌薬が不要な状況を説明できる。 ㉓白血球や炎症マーカーに依存しない現代での標準的診療スキルを学ぶ。

<p>スタッフ紹介</p>	<p>平井由児（感染症内科一般・HIV・性感染症・輸入感染症・感染対策） 日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本感染症学会 感染症専門医・指導医 日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医 日本エイズ学会 認定医 日本病院総合診療医学会 病院総合診療認定医 日本がん治療学会 がん治療認定医 インフェクションコントロールドクター 認定産業医・難病指定医 欧州臨床微生物感染症学会（ESCMID） Food and Water-borne Infection Study Group (EFWISG) 所属 同 Fungal Infection Study Group (EFISG)所属</p> <p>宇留間 友宣（講師・呼吸器一般、肺ガン、感染症） 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 日本感染症学会 感染症専門医・指導医 日本アレルギー学会 アレルギー専門医（内科） 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医 日本医師会 認定産業医 インフェクションコントロールドクター（ICD）</p>
---------------	---